

内容（１）「福島県廃棄物処理計画の改定について」における事前意見と対応

No.	資料番号、ページ	意見等	県対応	委員名	担当課室
1	資料 1-1-1 P2	図 3 で、本件のリサイクル率の予測を、どのようにしているのか教えてほしい（どのように傾きを設定しているのか）。	直近 5 年間（令和 2 年度から令和 6 年度）の実績値をもとに引いた近似直線の傾きを用いて予測しております。	沼田委員	一般廃棄物課
2	資料 1-2-4 P2	県の施策の方向性の一つとして、草・剪定枝を他のごみと分けて分別収集することを検討して頂きたい。うまく回収すれば枝を用いて木質バイオマスとして水素を取り出すこともできるはず（福島大学でそういう研究も進んでいる）。	ご意見を踏まえまして、脱炭素に向けた施策として、草・剪定枝を分別収集し、バイオマス燃料等として資源化する市町村の取組を促進してまいります。	沼田委員	一般廃棄物課
3	資料 1-2-6 P2、3	赤枠で囲っていないところもどれも大切な話であり、それらを総合的に考えることが循環経済の肝のはず。その意味で、赤枠で囲っているのは誤解のもと。	ご指摘のとおり赤枠以外の箇所も大切な考え方であります。 当該資料では、前回の審議会で委員からいただいた意見の箇所が分かるよう赤枠で囲っております。	沼田委員	一般廃棄物課 産業廃棄物課
4	資料 1-2-7	AI を使うための設備を導入したことが中心になっており、AI をどう使いこなすかの話が出てきていない。各自が持っている PC で AI をどう使いこなすかも含めて検討していくべき。	廃棄物処理に関する AI 開発については、一部実用化されている事例もありますが、まだ発展途上の技術であり、現在、企業と研究機関での共同研究が進められております。 こうした研究成果を踏まえ、今後、業界への普及についてさらに検討してまいります。	沼田委員	産業廃棄物課

資料 1 - 3

5	資料 1-2-8	不法投棄防止やポイ捨て削減などの観点でも AI を使ったりできる可能性はあるのではないかと（実際、そのような研究や実践も出てきている）。	廃棄物処理に関する AI 開発については、一部実用化されている事例もありますが、まだ発展途上の技術であり、現在、企業と研究機関での共同研究が進められております。 こうした研究成果を踏まえ、今後、業界への普及についてさらに検討してまいります。	沼田委員	産業廃棄物課
6	—	喫煙は生活環境を汚す重大な問題です。また、最も多い散乱ごみはたばこの吸い殻です。日本でも路上ごみの「個数」で見ると圧倒的 1 位です。海洋ごみでもたばこの吸い殻は主要汚染源です。 従って、たばこの吸い殻のポイ捨てもこの環境審議会に取り上げるべきです。	たばこの吸い殻を含むごみのポイ捨て防止については、これまで、道路沿いへの看板の設置、テレビやラジオでの広報などにより啓発してきました。 引き続き、県の施策として計画に記載することを検討してまいります。	渡部康委員	一般廃棄物課